

今週のお薦めレコード

テンシュテット
生誕100年を祝して

このレコードを聴きタイ



第8025番 税込み1650円



クラウス・テンシュテットは
1926年東ドイツ出身。
1971年に亡命し、欧米
各地で活躍したが、1985
年に咽頭癌を発病。1993
年からは活動休止し、
1998年(71歳)で死去。

メンデルスゾーン、シューマン 交響曲第4番
ベルリン・フィル／テンシュテット
独エレクトローラ／1C067-03904／切手ラベル／
1980年デジタル録音／G

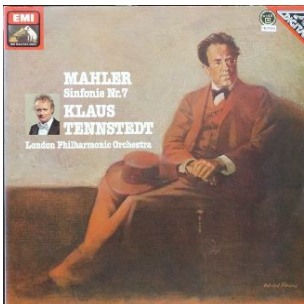
テンシュテットは「イタリア交響曲」にさえ殊更感情を
持ち込まない。彼はいつもそうだが、深い楽譜の読みか
ら、音楽自体に語らせる。まるで音符や休符の交通整
理をするように。それが冷たくなならないのは彼の人間性
だろう。シューマンでは主旋律と対旋律が同じ重みをも
って絡み合うから、深い音色を生む。主部になって勢い
づいた時にはそれらが束になって進む。その効果は小
気味よい。テンシュテットは主情派からは最も遠くに位
置する指揮者であり、かつてカイルベルトが歩んだ道を
歩んでいるのだろうか。(山田)

第8026番 税込み2750円



マーラー 交響曲第4番
ルチア・ポップ(S)ロンドン・フィル／テンシュテット
仏パテ／C069-43397／1982年デジタル録音／G
すでに6曲の録音を終え、L.ポップを迎えての人気
曲。西側で活動を初めて10年。とても伸びやかになっ
た彼の美点はこのマーラーで最も良く生かされている。
まるで孵化した蝶が喜びを謳歌しているような演奏であ
る。ウィーン・マーラー協会から表彰を受けた自信あふ
れる棒は、2年前のシューマンの固さはすっかり取れ、
人気もうなぎのぼり。縦の線にぎっしり詰まった音符に生
命力を与え、見事に解き放ち、または集めたり交差させ
たり、目まぐるしいマーラーの音楽を極めて聴き易くま
とめていく様は聴いていて気持ちがいい。終楽章に聴く
つぼみが弾けたように清純なポップの歌唱も見事だ。

第8027番 税込み4400円



マーラー 交響曲第7番『夜の歌』
ロンドン・フィル／テンシュテット
独エレクトローラ／1C157-43008／2枚組／
切手ラベル／1980年デジタル録音／G

短い間だがショルティの薫陶を受け続けていたロンド
ン・フィルの響きは固い。テンシュテットが3年ほど掛け
てマーラー・シリーズを続けていくうちに、次第にほぐれ
ていくのが良く分かる。テンシュテットはこの作品の中の
ロマンティックな要素も十分に、時には全霊を傾けて壮
大に引き出して新たな投影をする。それによって変化を
もたらされた音楽は力を得てこの作曲家の分裂気味な
部分を残しながらもスケール感ある山を築き上げる。退
廃的あるいは世紀末的香りを一掃した演奏として、テン
シュテットを評価したい。

第8028番 税込み5500円



ブラームス ドイツ・レクイエム
アルト・ラブソディ、運命の歌
J.ノーマン(S)、ヒンニネン(Br)、W.マイアー(Ms)
ロンドン・フィル／テンシュテット
仏パテ／2703133／2枚組／DMMプレス／
1984-5年デジタル録音／G

コントロールの行き届いた合唱団に生気を与えたテン
シュテット。まるで、横たわる死者を花で埋め尽くす情
景を見るように、それははかなくも美しい。悲しみを抑え
て死者に語り掛けるようなジェシー・ノーマンの人間味あ
ふれる声。W.マイアーの声は抑え気味な「アルト・ラブソ
ディ」だが、理由があるのだろうか。そして、ドイツ・レク
イエムの雛型とも言うべき「運命の歌」で結んでいるのは
良いアイデアだ。